

事業コード	04010107	政策コード	04	政策名	秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略
事業名	広域観光連携誘客促進事業	施策コード	01	施策名	地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化
部局名	観光文化スポー	指標コード	01	施策目標(指標)名	国内外からの観光客に選ばれる誘客コンテンツづくりの推進
	課室名	観光振興課	班名	誘客推進班	(tel) 2265
				担当課長名	阪場 進一
				担当者名	羽澤 彩子

評価対象事業(計画)の内容

事業年度 平成29年度 ~ 平成99年度

1. 事業立案の背景(施策目標の達成のために今なぜこの事業が必要なのか)
 国では、平成28年を「東北観光復興元年」に位置付け、東北観光復興対策交付金等を活用して、2020年までに東北の外国人宿泊者数を約3倍の150万人泊に押し上げることを目指している。平成28年における本県の外国人宿泊者数は、対前年比で125.1%と東北全体の123.3%を上回るものの宿泊者数は東北最下位である。このような状況を踏まえ、訪東北外国人旅行者の観光流動を促進するため、北東北三県や東北六県等と連携した広域的なプロモーションを展開する必要がある。

3. 事業目的(どういう状態にしたいのか)
 北東北三県や東北地方が連携し、県際や複数の県での広域プロモーションを実施し、訪東北外国人旅行者の観光流動を促進する。
 (重点施策推進方針との関係) 重点事業として要望 その他事業として要望

2. 住民ニーズの状況
 ニーズを把握した対象
 受益者 一般県民 (時期: H29 年 11 月)
 ニーズの把握の方法
 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット
 その他の手法 (具体的に)
 ニーズの具体的内容
 訪日外国人の旅行者の動向を見据え、台湾やタイ、韓国、中国などの市場をターゲットにした誘客への取組を必要としている事業者が多い。

4. 目的達成のための方法
 事業の実施主体 県
 事業の対象者・団体 一般消費者等
 達成のための手段
 ・十和田、八幡平地域の認知度向上及び誘客促進 ・食を切り口とした北東北の認知度向上及び誘客促進
 ・デジタルマーケティング手法による訪東北旅行者の動向分析 ・ソーシャルメディア等を活用した認知度向上及び誘客促進 ・冬の東北観光コンテンツの整備と情報発信

比較した代替手段及び選択した手段の有効性
 北東北や東北地方の動向を踏まえた、特徴を活かしたアプローチとなっている。

把握していない場合の理由及び今後の方針

理由

今後の方針

5. 事業の全体計画及び財源 単位(千円)

順位	事業内訳	左の説明	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	全体(最終)計画
01	十和田・八幡平観光ブラッシュアップ事業	十和田・八幡平地区がおかれている現状を踏まえ、同地区の課題解決を図るとともに、国立公園が有するポテンシャルを効果的に活用した海外からの誘客を図る。	24,773	24,773	24,773	24,773	24,773	24,773	
02	北東北「食街道」周遊プロモーション事業	地元食材を活用しメニュー開発を行った店舗をコースに含む、北東北を周遊する旅行商品を造成するほか、モデルコースの情報発信を行う。	24,188	24,188	24,188	24,188	24,188	24,188	
04	東北広域マーケティング事業	東北地方を訪れる旅行者のマーケティングデータを分析し、PDCAサイクル確立のための検証を行うとともに、観光マーケティング人材育成に向けた研修を実施する。	9,525	9,525	9,525	9,525	9,525	9,525	
05	東北の魅力ある観光コンテンツを活用したオール東北連携事業	ソーシャルメディアやデジタルコンテンツを活用した東北の認知度向上を図るほか、冬の東北コンテンツを活用した誘客を図る。	49,387	49,387	49,387	49,387	49,387	49,387	
	財源内訳	左の説明	107,873	107,873	107,873	107,873	107,873	107,873	
	国庫補助金	東北観光復興対策交付金	86,297						
	県債								
	その他								
	一般財源		21,576	107,873	107,873	107,873	107,873	107,873	

6. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

事業の期待される成果		秋田県外国人延べ宿泊者数の増加							
指標	指標名	秋田県外国人延べ宿泊者数（全施設）					指標の種類		
	指標式	秋田県外国人宿泊者数×泊数					成果指標 業績指標		
	年度別の目標値（見込まれる成果による指標）								
	指標	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	最終年度
	目標a			125,000	150,000	175,000	200,000		
	実績b	66,950	データ等の出典						
	東北	観光庁宿泊旅行統計調査							
全国	3,399,890								
把握する時期								当該年度中 月 翌年度 07月 翌々年度 月	

指標	指標名								指標の種類
	指標式								成果指標 業績指標
	年度別の目標値（見込まれる成果による指標）								
	指標	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	最終年度
	目標a								
	実績b		データ等の出典						
	東北								
全国									
把握する時期									当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 月

指標を設定することができない場合の効果の把握方法
 指標を設定することが出来ない理由

見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

事業の必要性

現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性
 交流人口の増加による県内経済の活性化を図るには、隣県と連携したインバウンド誘客に取り組む必要がある。

住民ニーズに照らした事業の必要性
 国内旅行市場が縮小するなか、増加傾向にある訪日外国人旅行者に対する継続的なプロモーション等による誘客拡大へのニーズは大きい。

事業の県関与の必要性
 法令・条例上の義務 内部管理事務 県でなければ実施できないもの
 民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの
 複数の県との広域連携による取組が必要であり、県でなければ実施できない。

政策評価委員会意見

重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定

重点事業

その他